

II 川平保護水面（貝類）

村越正慶^{*}、杉山昭博^{*}、後田多朝吉^{**}
 佐久本英珍、島尻広昭、宇佐美智恵子^{**}

今年度はヒメジャコについて生殖巣部湿重量、成長量、そして放流効果の各調査をおこなった。加えて石西礁湖内の大型シャコガイの生息状況を調査した。種苗生産はヒメジャコを中心としてヒレジャコ、シャゴウについても種苗生産試験をおこなった。また粒度組成と底生生物及び水質等環境調査は例年と同様におこなった。

1. ヒメジャコの生殖巣部湿重量調査（村越）

方法

試料は保護水面区域内の川平湾礁原部側の岸寄りの定点（図6，st 2）で採集した。採集方法は琉球石灰岩に穿孔生息している個体を傷つけないように周囲の石灰岩をドライバーとハンマーで割って採った。採集した個体はすぐに試験場に持ち帰り、殻長及び全湿重量等を測定の後、足糸開口部からメスを入れて閉殻筋を切って開殻させ、軟体部（W）を取り出し、更に生殖巣部（GW）のみを切り取り、それぞれの湿重量を秤量した。生殖巣部湿重量比率（GWR）は $GWR = \frac{GW}{W - GW} \times 10^2$ の式を用いて表わした。調査は長年にわたる定点からの採集であるので採集個体を少なくすることに努め、過去の調査から明らかに生殖巣部湿重量の減少期と判明している時期の試料採取は行わず、減少期の出現月まで毎月1回とした。今年度の調査日は月の下旬（新月大潮時）を原則とし、採集個体は殻長7cm以上の雌雄同体個体を5個体ずつとした。

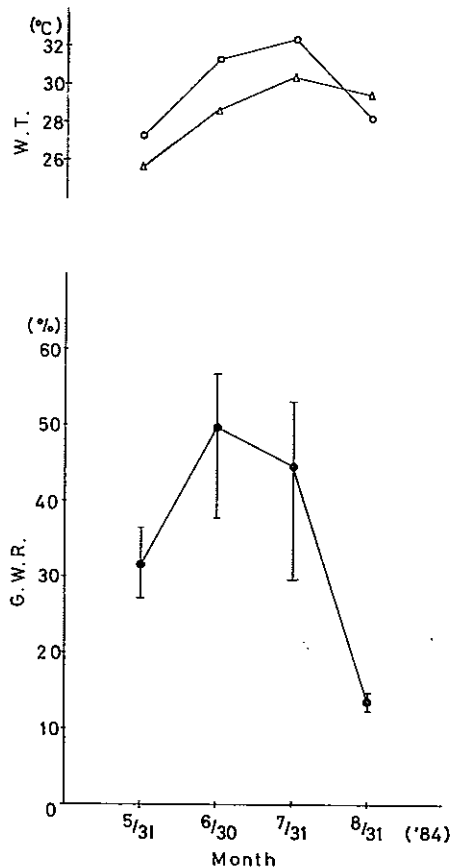


図1 ヒメジャコの生殖巣部湿重量比

* 報文とりまとめ

** 非常勤職員